

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)		
所在地	大分県由布市挾間町古野254番地3		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年11月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、自然が多い所にあり、周辺には、田や畑、居室窓からは由布・鶴見などの山々が眺められます。  
 2、併設の診療所と大学附属病院が周辺にあり、医療面も充実しています。 3、隣接した法人施設の行事に参加したり、GHでの行事を計画したりしつつ、常に居室にこもらぬよう毎日訪室・声掛けを心掛けており、家庭的な雰囲気を出せるようにし、かつ定期的に活動(おやつ作り、生け花、ゲーム)に取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・リビングの窓から、山々の風景や、桜並木が望め、季節を感じることができる。  
 ・3階建てのアパートを改装した建物で、各居室にトイレやキッチンがあり、自宅での暮らしを続けているような造りとなっている。  
 ・併設医療機関との連携が密に図られており、健康面の安心が得られている。  
 ・職員は資格取得者が多く、経験年数の長い職員が多い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人一人の人間性を尊重し、家庭的で、温かい生活を目指し、それと共に地域との共存・共生を目指した施設にしたいと考えております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。管理者は年度末ごとに、職員に理念を説明し初心に戻ろうと職員に伝えている。 月1回の会議で振り返りながら、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が当地域の自治会・老人会に加入しており、交流が出来る範囲で行っております。また、当地域住人に対しては、常に挨拶や時間があればお話しなどをし、地域での交流を心掛けております。	小学校のマラソン大会の応援や地域の防災訓練に参加している。また、散歩の際には積極的に地域の人と挨拶や会話を交わすなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通じて、入居者家人や、自治区長・民生委員・地域包括センターに働きかけをし、各地域の高齢者の暮らしについて等の、情報収集をし、その内容を検討し、可能なものは還元・実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催し、利用者・家人・地域包括・当施設の周辺地域の民生委員が参加し、事故防止や苦情解決等について話し合いを行っている。その中で出た意見をもとに、当GHでのケアなどに生かそうとしている。	年6回、開催している運営推進会議では、参加者より、地域の情報をもらったり、利用者の馴染みの音楽を提供してはどうか等の意見をもらい、サービス向上につなげるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市への担当者との連絡をし運営上の事から日常的な小さな悩みまでの相談を行い、常時アドバイスをいただいております。また、GHとしても市役所との連携を密にし、施設の向上に取り組んでおります。	市担当者とは、事業所の実践状況を伝えながら、相談や助言をもらっている。「由布物忘れネットワーク」や多職種連携の研修、会議を通じて市担当者と連携、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う必要がなくて自由安全に安心して生活が送れるように常に心掛けている。それと同時に、内部研修や今年度より開始の当法人による身体拘束委員会に参加し、各職員に報告等を行い、身体拘束のない生活に日々取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて法人研修を年2回、行っている。身体拘束をしない自由な暮らしの大切さを学びながら、日々のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、言葉の虐待も認めなくてはならない問題でもある。そのことについても研修をしているが、最も大切にしていることは、常時、職員が心掛け、細心の注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所事例はないが、内部研修などにより認識を深め、必要な場合では、いつでも支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から契約時まで丁寧な説明を行い、個々の立場に立って、分かりやすく説明をし、疑問時には、相談員を交え話し合いを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置するとともに、家族の面会時などには、時間が許す限り、話しかけ等をし、意見・要望・不満・苦情について気軽に引き出せるよう努めております。なお、ご意見が出た場合には、職員間の話し合いや、ケアマネ、相談員などとの意見交換などを行い、対応に努めております。	利用者の意見は、日々の関わりの中でその都度聞きながら反映させている。 家族とは、面会時に気軽に意見をもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議やカンファレンス等を開催している。そのなかで、他の会議にて重要な内容があれば、話し合いをしている。それと共に運営等の意見があれば、常時幹部等に報告できるよう努めている。	職員会議やカンファレンス等で職員意見を聞いている。職員は積極的に意見や提案を行い、出された意見は検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的に職員会議に参加し、実績や勤務状況を把握し、スキルアップの為の助言や方向性についての話し合いを行っている。また職員それぞれの特性を活かした役割分担をし得意分野を伸ばしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は法人での研修がすぐに実施され、段階に応じた研修を行っている。また、毎月1回の内部研修・外部研修報告の伝達をし、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所のグループホームと情報提供などの交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や利用者様からの情報を得よう努力している。また、入居時の相談・不満などがあった場合は時間を多めに取って不安内容の明確化を図れるよう相談員などと連携しつつ行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が施設見学をし、納得のいく入居運びとなっている。また、当事業所の取り組み内容の説明については、入居者及び家族様との話し合いの中で、不安・要望を聞きつつ今後も信頼関係を気づけるような雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安・悩み等を十分に聞き、軽減に努めている。また、今後のサービス内容についても相談し説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の思いを大切にしながら、人生の先輩であることを忘れずに尊敬の気持ちで接することを常時心掛けています。また、日常生活の中でも入居者の新たな発見をした場合は、さりげない支援に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で利用者様の現状を報告し、共に支援していく対等な関係を築いていけるよう努めております。また、行事等のお知らせをし、共に楽しんでいただけるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全職員が利用者の家族のみならず、知人・友人関係を理解し、今後も良好なる関係が継続できるように支援している。	家族や友人の面会がある。また、併設施設を利用している友人に会いに行くこともある。手紙の代筆や電話を掛けるなど、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や生活歴を把握し、ホーム内で心が許せる関係が築ける雰囲気ができるように、職員が入居者の話し合い場を作ったり、ゲーム交流などを支援し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様には、ご相談等があれば、気軽に、当GHや、当法人にご連絡して下さいとのお願いをし、これからも変わらぬ関係性の持続に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から話を聞いたり、生活の中で入居者とコミュニケーションを図りながら把握に努め、それをもとにフェイスシートに記入している。また、意向が困難な利用者に対しては、日頃の支援の中で反応や表情の中で探り出している。	フェイスシートや認知症の人のケアマネジメント センター方式の『私の気持ちシート』を活用しながら、本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者やご家族様より、生活歴や生活環境、趣味等をお聞きし、その利用者にあった生活が送れるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時記録や申し送りで状態の把握に努めており、生活の中で常時入居者一人一人の心身の状態の把握をし、それを基に、入居者ができることをやっていただく方向である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングシートを基に家族の意見や満足度を聞き取り、定期的なカンファレンスで職員・利用者・家族の意向を取り入れ介護計画を作成し、全体で共有している。	日々のケアチェック表を基に、月1回モニタリングをしている。本人や家族、職員の意見を聞きながら、3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化、介護計画に沿った実践記録を記入している。また、その情報を共有し計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の施設があり、各事業所との連携をとり支援している。また、各家族との連絡も都度行い、現在の状況等を説明し、状況を共有できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人は当地区との防災協定を結んでおり、祭りなどの交流をしながら、地域になじめるよう努めている。また、消防・警察なども協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科が定期的に当GHに往診し、利用者の安全と信頼を得ている。また、入居前に通院していた医療機関や専門医を希望した場合は、家族または職員が同行・受診をしたり、GH協力機関を利用し対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。毎日、併設医院の医師や看護師による健康観察が行われており、他の医療機関との連携も図りながら適切な医療を受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、医療法人で運営されているため、併設内科看護婦が、常時健康管理などに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡は当法人が診療所を運営していることもあり、迅速な対応が可能である。また、入院先の医療機関の主治医・看護婦との連絡や申し送りなどの連携を密にとり、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が悪化した場合やターミナル期については、その都度ご家族様の意向や今後の方向性・意思などを医師や支援相談員などを交えて話し合いをしている。また、職員間で利用者様の状態を支援し、都度当法人の診療所と連絡し対応をしている。	重度化の指針を作成しており、入居時に家族へ説明をしている。状態の変化に応じて、医師を交えて話し合いを繰り返している。本人や家族の希望に沿って、可能な限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の備えとして当法人のマニュアルを備えたり、当法人の内部研修をし、随時対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治区と防災協定を結んでおり、災害発生時には協力が得られるようになっている。避難訓練も当法人で定期的に行われており、避難時には速やかに行われるようマニュアルも用意し取り組んでいる。また、食料の備蓄当法人の厨房と契約している会社と契約しており、災害時すぐに支援の体制が整っている。	年2回、日中や夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。地域の防災訓練に参加する等、地域との連携を図っている。隣接の法人本部に備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人一人を尊重し、入居者に対し言葉かけ・接し方に注意し対応している。個人情報についても、研修などもそうだが、常時外に漏らさぬよう全職員努めている。	法人研修を行っている。日々の関わりの中で気になる対応があれば、職員間で注意しながら、誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のそれぞれの性格に合わせた対応に努め、難し時は、ご家族様や相談員など外部の協力をし対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な生活のリズムはあるが、体調や気分により、自室で過ごしたり、時間があれば、ホールでのレクや、外への散歩をしたりし、本人に合わせた生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、理美容については、定期的な訪問にて当GHで行っているが、ご家族様・利用者様の希望により、行き慣れた店に訪問理美容を依頼することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やあと片付けなどは、利用者様ができる範囲で行っている。また、食事中は、昔話や、現在の話題などできる範囲で利用者と話し、家庭のような雰囲気作りを努めている。また、利用者の好き嫌いを把握し、当法人の栄養士と連携にて配慮もしている。	ご飯、汁物を事業所で手作りしている。栄養士が作成したおかずが併設施設の厨房から届く。利用者の好みやリクエストがあれば献立に反映している。利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養・水分摂取量の目安を基に全利用者の状況を把握している。献立の好みなどを取り入れ同一法人の老人保健施設の栄養士が作成したバランスの摂れたメニューである。また、嚥下機能・状態に応じて刻みや柔らかいものなどの食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を活かしながら状態を確認しつつ、口腔ケアの支援を行っている。また、月1回の当法人による口腔ケア研修に参加し、口腔ケアの支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導が必要な方には誘導などの支援をのちのち自らトイレ対応が出来る様支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握している。タイミングに合わせて声掛けや誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄ができるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、一人一人のペースに合わせた生活や軽度の運動などを行っている。また、排便が困難な方には医師と話し合い薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望に応じていつでも入浴が可能である。他にも汚れが気になった時や失禁など状況に応じて入浴などの対応を行っている。また、体調の変化に応じて清拭などに変更したりと、清拭保持に努めている。	本人の希望や体調に合わせて、週2回以上の入浴を目標に支援している。シャワー浴やベッド上での清拭等、一人ひとりの体調や身体状況に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スペースができており、ゆったりと居心地の良い場所が確保されている。また、昼夜逆転を防止するため、日中は居間で過ごすように努め、ゲーム等を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は全入居者の服薬情報を把握しており、服薬の際はチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	前利用者の生活歴・趣味などを把握し個々の身体状況に応じて、役割をお願いしたり、レクレーションを一緒にしたりなどの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者自ら散歩・外出の希望あれば、日々の生活の中で検討し、対応しています。また、職員が外出対応できなければ、他部署や、家族様にもお願いし対応しています。	本人の希望があれば、天候のよい日に散歩に出かけたり、併設施設の行事に参加している。家族や友人の協力の下、買い物やドライブに出かける等、個別の支援は行っているが、気分転換になるようなドライブ等の支援は行われていない。	気分転換やストレス発散、五感刺激の機会としての外出や、一人ひとりが楽しめるような支援を、全職員で前向きに検討を進めていくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は、記録している。また、買い物に出かけたときは、職員が見守り、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各入居者より、手紙・電話の要望あれば、可能な限りの対応・支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節ごとの飾りつけを行ったりし、各季節を楽しむような対応を可能な限り行っている。また、昔のポスターを貼ったり等し空間を楽しむ対応にも心掛けている。	2階にある居間は静かで、光や音、温度など心地よく過ごせるよう配慮されている。季節の花を飾り、往年の映画俳優のポスターを壁に貼るなど、利用者の好みを活かした工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子・テーブル等を配置し、過ごしやすい様に設置している。また、ソファ等を設置し、リラックスできる環境作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパート形式であるため、各部屋には流し台やトイレ等があり、仏壇や洋服掛けなど家庭でなじみのある物の持ち込みもあり、その人の個性や趣味を活かした居心地の良い空間作りに努めている。また、自分の衣服などを干してあり、家庭的なところも時々見られる。	テレビや収納家具、使い慣れた布団など、本人の好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、要所(風呂場・トイレなど)には手すり取り付けられている。		